

「保育」の原点 113

赤ちゃんの笑いには二種類ある

文

葛西得男

text by Tokuo Kassai

ア メリカの学会で「新生児も笑う」という研究が発表されたとき、じつは私も、生まれてすぐ、ことに眠った状態にあるときなど、微笑の顔をするのはたまたま体験してしまいました。これは何か気持ちよく満足な体の内部を表現していると思っていました。しかし、その後、よく観察すると、生まれたばかりの赤ちゃんも、どうやら笑っているらしいことがわかってきました。

赤ちゃんの笑いには、大別して二通りあります。

一つは自然発生的な笑いで、だれもそばにいないとき、ときどき笑っているような表情を見せるのです。また、眠っている時にニョッと笑ったような顔になることがあります。

他の一つは、こうした笑いとはちよつとちがうもので、お母さんがそばにいて、一生懸命、楽しい雰囲気をつくり、

目と目が合うと、それに反応したように笑う場合です。こんな微笑が見られるのは、多く

は1カ月半〜2カ月くらいのことですが、たまにですけれど、こういう微笑が生後間もな

く見られることもあります。ですから、お母さんが「うちの子はもう笑うんですよ」と自慢そうにいうのも、たんなる親バカの思い込みと否定できないような気がします。もちろん、笑うといっても、この時期はこっけいなことに対して笑うわけではありません。やはり、この笑いは、自分が受け入れられたことに対する、なんともいえない満足感の表明なのでしょう。

私の経験では、生まれて間もない赤ちゃんでも、何か雰囲気を感じていることはあるようです。かといって、その証明はまだ不可能なのですが、自分に伝わってくる雰囲気を、肌か何かで感じていることは否定できないように思います。赤ちゃんには、雰囲気を感ずる特別の能力が備わっているのかもしれないですね。

赤ちゃんが生後まもなく見せる不明な笑いは、学問的には睡眠中のレム睡眠のためといわれています。お母さんにあやされて笑うのは、一、三カ月たってからでしょう。

あやされて笑う、これはあやす人との間に好意的交流があった証拠で、これを社会的微笑として、生まれてすぐの微笑と区別しています。お母さんが

あやしたりすると、ちゃんと反応して笑うようになります。最初は三回のうち一回くらいしか反応を見せませんが、ついにその確率が高くなります。つまり、雰囲気を感ずる能力が、それだけ安定してきた証拠でしょう。

いずれにしても、赤ちゃんに接するとき、笑ってくれらるかどうかは別に、どんなに小さい赤ちゃんでも雰囲気を感ずる能力があることは無視できません。赤ちゃんは、大人の心の中を敏感に感じとっているのです。

『育児の原理』より



内藤寿七郎著
『育児の原理』

Profile

1950年12月8日大阪に生まれる。
1972年、追手門学院大学卒業後、米国ボストンカレッジに留学。
1975年に帰国後、アプリカ葛西に入社。営業部、副社長、社長を経て、1996年に社会福祉法人 松福会 理事長に就任。
松福会は社会福祉法人として高齢者介護施設「アップリケア」と認可保育園マザーシップ保育園を運営している。
アプリカ葛西 副社長時代に国連環境計画 (UNEP) のスペシャルアドバイザーとして子供たちのために地球環境問題を考えるプロジェクトに参画し、世界の賛同者と世界会議、イベント普及活動などを行いながらその人脈などを広げ現在に至る。

